

教育センター学びの丘長期研修員研修の概要について

上富田町立朝来小学校
教諭 小畑 慎

和歌山県教育センター学びの丘における長期研修員研修は、教育に関する専門的・技術的事項について研修し、教職員としての資質能力を高め、その成果を本県教育の充実に生かすことを目的とされている。言うまでもなく、教員は絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。研究とは「物事を詳しく調べたり、深く考えたりして、事実や真理を明らかにすること」であり、修養とは「知識を高め品性を磨き、自己の人格形成につとめること」(『大辞泉第2版』2012, 小学館)とある。

今回、長期研修員研修を「自己の専門性をより向上させるための研究と、教員としての資質を広く高める修養の機会(下図参照)」として捉え、1年間研鑽を積むこととなった。研修中は、センター等が実施する多岐にわたる研修講座や指導主事等による「研修員研修」の受講、所属校における学校課題解決のための校内研修参加等を通して、幅広く教員としての資質能力の向上を目指してきた。

これらの研修を通して、教育活動を展開していくにあたり大切にすべき点について、多くの示唆を得ることができた。中でも、自身の研究では、これまでの実践から課題を見出し、学習者である児童によりそった授業づくりに取り組んだ。また、生徒指導や特別支援教育に関わる研修講座を受講した際にも、自身の研究と同じく、児童生徒の立場によりそった指導を組織として行うことの大切さを強く感じた。生徒指導に関わる講座では、「チーム学校」という言葉が頻繁に使われ、組織的に指導を進める基盤として、同僚性と協働性を高めることが大切だということが理解できた。特別支援教育に関わる講座では、児童生徒の実態把握の方法から、授業の中での指示や発問、活動例等、具体的な内容も多く、今後の実践に生かせるものであると感じた。さらに、配慮の必要な児童生徒への支援は、学級全体にとってもわかりやすい支援となるので、ユニバーサルデザインの視点を取り入れて授業を行うことは、これからの実践に不可欠なものであると感じた。

「授業力」「学校組織開発力」「校内研修運営力」向上トレーニングにおいては、校種や研究教科・領域の異なる研修員同士でグループワークを行い、教材分析や学校組織の運営についての考えを深めた。それぞれのテーマについて、お互いの考えを出し合うことで新たな気づきが得られ、視野を広げることができた。また、それぞれの研修員が所属校の課題解決のための校内研修に参加し、その情報交換をすることも刺激となり、積極的に所属校の校内研修に関わっていきたいという意欲につながった。今後は、1年間の研修員生活で得たものを、より多くの同僚に広め、自身も学び続ける姿勢を忘れず、所属校における学校課題解決のために取り組んでいきたいと考えている。

なお、自己の専門性を向上させるために、年間を通して行った研究については、別途「研究報告書」としてとりまとめることとする。

段階	第1段階 基礎期	第2段階 向上期	第3段階 探究期	第4段階 充実期	第5段階 修了期
月	4月～5月	6月～8月	9月～11月	12月～1月	2月～3月
研究	・研究テーマ、方向性を設定し、第1回報告会で発表	・所属校での授業研究に向けた単元計画、資料等作成、模擬授業	・授業研究計画を第2回報告会で発表 ・授業研究の実施	・授業研究で収集したデータ分析	・和歌山教育実践研究大会で発表 ・研究報告書、資料の作成

所属校研修「所属校との連携・研修成果の還元」

修
養

- 「授業力」「学校組織開発力」「校内研修運営力」向上トレーニング
- 専門性の向上を目指す専門研修講座等受講
- 初任者研修、10年経験者研修聴講
- 学びの丘指導主事等による研修員研修